

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2773800970		
法人名	社会福祉法人ふくふく会		
事業所名	グループホームみやび なごみ村		
所在地	羽曳野市西浦2丁目1844-1		
自己評価作成日	平成 28年 5月 1日	評価結果市町村受理日	平成 28年 7月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2773800970-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2773800970-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 28年 6月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム理念:生活の中で家事などの活動を重要視した、レクリエーションや外出など楽しみを多く持てるように取り組んでいます。  
 ユニット:入居者個々のできることをミーティング等で話し合い継続できるように又新たに発見できるように取り組み、スタッフより「ありがとう」と感謝の声かけ行い入居者の生きがいや役割が持てるように実施生かされているのではなく生きてもらえるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人を母体とした3ユニット27名のグループホームです。田園風景の広がる静かな住宅街の一角にあります。4階建ての建物には、1階に通所・訪問事業所があり、2~4階がグループホームです。リビングや居室は窓が広くどこからも採光が入り、季節を感じる風景が広がっています。広いテラスでは食事会、コーヒータム、花を育て洗濯物を干したりと生活に広がりを持たせています。「安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します」を法人理念としています。管理者・職員は、その理念の基にホーム理念・フロア理念を作成し、同じ目標に向かって取り組んでいます。管理者は、目標達成の為に職員の育成が重要として研修や勉強会を実施しています。家事活動を一般的な家庭のように大切に、利用者と一緒に家事を行っています。また利用者一人ひとりの希望を叶えるために、定期的な外出行事だけでなく、その日の天気や利用者の気持ちで自由に出かけるなどして利用者が生き生きとした生活になるような支援をしています。ユニットそれぞれの個性を大切にしながらもリーダーを中心に切磋琢磨し、更に質の高いケアを目指しているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	<p><b>○理念の共有と実践</b></p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人理念と同様にグループホームの理念と各ユニットの理念を作成し、エレベーターの前やユニットに掲げミーティング等で話し合い実践に繋げている。</p> <p><b>【法人理念】</b> 安心・安全・安堵をモットーに私たちは常に向上心を持って心の通う運営を目指します。</p> <p><b>【グループホーム理念】</b> 私たちは入居者の家事活動を重要視します。またレクリエーションや外出など楽しみを多くもてるようにします。</p> <p><b>【フロア理念】</b> 私たちは1人1人に尊厳を持って関わります。また感謝の言葉掛けを大切にします。</p>	<p>管理者や職員は、理念をホームの運営、サービスの実践上重要なものと認識しています。法人理念の基に、「私たちは、入居者の家事活動を重要視します。またレクリエーションや外出など楽しみを多くもてるようにします。」をホーム理念として各ユニットのエレベーター前、事務所内に掲示しミーティングや研修時に理念の確認を行う等、職員間で共有しています。職員間ではこの理念を達成するためのフロア理念を作成して、日々介護実践に活かしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	<p><b>○事業所と地域とのつきあい</b>                      利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域の祭りに参加したり事業所の夏祭りやバザーへの参加を呼びかけたりと地元の人々と交流することに努めている。地元小学校、中学校の労働体験や訪問を積極的に受け入れている。馴染みの関係が出来るよう、同じ場所に定期的に外出したり、同じスーパーに買い物に行き挨拶等の言葉を交わす事で馴染みの関係を築いている。</p>	<p>ホームは、町内会に加入しています。利用者と職員は、地域の祭りに参加したり、ホームが主催する夏祭りやバザーへの参加を呼びかけたりして地域住民との交流を図っています。また、傾聴ボランティア、茶道の先生などとの交流は利用者の楽しみとなっています。市の委託事業「オレンジカフェ(かふえみやび)」を毎月実施しています。談笑しながらのカフェは、毎月第4日曜日に開催し、講座や相談会も年数回実施しています。管理者・職員は、認知症になっても地域で安心して暮らしていけるよう、認知症ケアの地域の拠点を目指した取り組みが進んでいます。</p>	
3		<p><b>○事業所の力を活かした地域貢献</b>                      事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域の方、認知症高齢者の本人や家族の方に気軽に来て頂けるよう毎月第4日曜日に地域カフェ(オレンジカフェ)を開催し相談にのれるようにしている。また、認知症講座をカフェ内にて開催している。                      要請があれば地域ボランティア団体等への認知症講座も行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た外部者からの意見や提案を施設長・管理者・計画作成者(リーダー)で運営会議、全体会議等で報告し改善に繋げている。	運営推進会議は、規程に沿い2カ月に1回、年6回定期的に開催しています。参加者は、家族の代表、民生委員、市職員、介護相談員、他市グループホーム管理者等多彩な顔ぶれです。会議は、ホームより利用者の状況、活動の状況(医療関係、行事、クラブ活動、外出内容、入浴回数、研修内容、会議、職員の異動、ボランティア、介護相談員等)を詳細に報告し、意見交換をしています。会議録はホーム内で閲覧できます。ホームページでも公開しています。全職員にも回覧していますが、今後は一般職員も交代での参加を検討する予定です。管理者は、運営推進会議について、ホームが固定観念に陥らないよう、ホームの取り組み状況を外部の目で確認、評価してもらう大切な会議と考えています。参加者より思いがけない提言があり、運営やサービスの向上に有効だと感じています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>〇市町村との連携</b></p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>日頃より電話やメール、訪庁して連絡を取り合い、相談等している。運営推進会議でも報告、相談している。</p> <p>その他、キャラバンメイトや(認知症)オレンジ新聞発行、認知症地域フォーラムなど認知症に係る事柄には積極的に連携、協力している。</p> <p>昨年度より定期的に市社協と協力して福祉職員就職相談会も開催している。</p>	<p>市役所の関係部署とは密な関係ができています。運営推進会議にも毎回出席が有り、相談もしています。</p> <p>事故報告もその都度しています。</p> <p>市の関係機関との連携も密で、認知症講座、認知症カフェの開催等の受託をしています。その他、認知症関係の市事業に協力しています。</p> <p>市内グループホーム部会の活動にも主導的な役割をして協力しています。</p> <p>『計画作成者の集い』『職員交流会』『利用者交流会』等の定期的な開催に尽力しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b>            代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束防止マニュアルを作成し、各ユニットに設置している。            身体拘束防止に関する勉強会、検討会も実施している。玄関やエレベーターに鍵はかけず、自由な暮らしを保っている。</p>	<p>管理者は、身体拘束をしないケアの重要性を正しく理解して、職員の指導をしています。重要事項説明書には、身体拘束について、3要件(緊急性、非代替性、一時性)も説明し、ホームの取り組み姿勢を明確にしています。マニュアルには、身体拘束にあたる具体的な事例を明記し、マニュアルを基に定期的な職員研修をしています。職員は外部の研修会にも参加しています。課題として、日常支援の中での言葉遣いが有り、管理者は特に重点を置いて指導に取り組んでいます。            玄関やエレベーターに鍵をかけない利用者の自由な暮らしを実現しています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止マニュアルを作成し、各ユニットに設置している。            毎年、虐待についての勉強会を開催し虐待防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族より相談のあったケースについては相談にのり助言等を行っている。 管理者、職員は権利擁護に関する勉強会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な時間をとり説明し、納得頂けているかどうか質問・疑問点を確認しながら進めている。契約後の制度改正時は文書を作成し説明、同意を得ている。 また、普段より家族の経済的負担にも配慮したサービス提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	羽曳野市より月に1回の介護相談員の派遣事業を受け入れており、意見を出せる場を提供している。また管理者・リーダー・職員ともに要望等を聴く機会を持つようにし苦情要望にたいしマニュアルを作成しマニュアルに沿って対応できるようにしている。 年1回グループホーム全体での家族会を開催し上記介護相談員に同席してもらい家族に意見を出してもらえるようにしている。	管理者は、家族との信頼関係ができてはじめて自由な意見や要望が出ると考え、信頼関係構築に取り組んでいます。毎月発行のフロア便り、3カ月毎に各利用者の生活状況を写真中心に個別に作成した便り『ライフレター』を家族に送っています。家族が訪問の折には、職員が利用者の状況を報告しながら、要望や意見の聴取に努め、記録して職員間で共有しています。家族会を年1回開催し、多数の家族が参加しています。スライドで利用者の暮らしぶりを紹介し、第三者委員、介護相談員同席のもと、家族の要望や意見を聞き、ホームから回答、意見の交換をしています。家族会での意見交換の内容は、議事録として家族に送付する一方、要望・苦情受付書に記載し、原因や対策を検討して具体的にホームの運営、サービス改善に反映させています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者が職場改善・提案書を常時受け付けている。またフロアミーティングや運営会議で意見を聞く機会も設けている。各ユニットでもいろいろな意見を出せる環境づくりを目指し、出た意見を活かすようにしている。また、個人面談時にも施設に対する要望、意見等を聞き改善できるものはしている。</p>	<p>管理者は、職員の意見や提案はホーム運営に極めて大切と考えています。職員は、各ユニットのフロア会議、クラブ会議、職員会議等で意見交換や提案をしてサービス向上に活かしています。月1回のリーダー会議や法人の全体会議等でも提言内容を検討し、運営に反映させています。昼の休憩を交替で取る仕組みは、職員の提案で実現しました。管理者は個人面接の機会にも直接意見や要望を聞いています。</p>	
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>隔月、運営会議を開催し各事業所、ユニットの状況や実績把握に努めている。</p> <p>チームワークや組織力を高めるため法人理念をもとに判断基準、行動指針を作成している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部の勉強会は毎月開催している。年に数回外部講師を招いての法人内研修も実施している。</p> <p>外部研修は各職員の勤続年数やレベルに合わせ管理者が参加の意思を確認し参加してもらい、費用は法人が負担している。</p> <p>内部研修、外部研修以外にリーダーから、職員個々に年度目標を設定し定期的に面談を行い達成に向けて取り組んでいる。職員個々の目標を一覧にして共有している。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は2ヶ月に1回、市内の他グループホーム管理者と意見交換を行っている。また計画作成者を中心として他グループホーム同士の集まり「計画作成者の集い」を毎月開催し交流を深めている。</p> <p>年2回(5月、11月)他グループホームとの職員交流勉強会も定例にて開催している。市内グループホームの入居者の交流会も3ヶ月に1回「にじの会」と銘打って開催している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニットリーダーが初回面接時や相談時に管理者と同席し本人より要望や不安な事を聴きサービス計画、サービス提供に活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当ケアマネより情報提供を受け相談時や初回面接時に家族より要望や不安な事を聴きサービス計画、サービス提供に活かしている。入居時、住み替えによるリロケーションダメージを最小限に抑えるため家族と相談、連携を図っている。 また、定期的に待機の方へは、状況確認の連絡を入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談のケースに応じ他のサービスや自施設の空き情報などの提供、空室のある他のグループホームの紹介も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場として、家事・趣味などを共に行える環境を提供し職員が本人より学ぶ事もあり支え支えられる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ユニット職員手作りのフロア便りを毎月1回発行し活動報告を行っている。来苑時には、ユニット職員が近況報告や相談を行っており急な体調の変化など必要な時は電話にて報告している。また3ヶ月毎に本人の生活状況をライフレターという形で個別に作成し送付している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通いなれた美容院へ行って頂いたり馴染みの人が面会に来られた際は、職員も一緒に迎え入れ、関係が途切れないよう努めている。	利用者は、馴染みの美容院や医療機関に家族や職員と出かけています。利用者の願いで家族や職員と実家に出かけて外泊をしたり、墓参りに出かける利用者もいます。馴染みの人や場所との関係が途切れることがないような支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、居心地良く過ごして頂けるような空間を設け痴話喧嘩や些細な意見の食い違い等があれば職員が間に入り良い関係が継続できるよう努めている。座席配置を決めず本人の意思により自由に座る所を選んで頂き、選べない入居者には職員が間に入り入居者同士が関わりあい、支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に継続的な関わりを必要とする入居者は現在いないが必要な時は便り等を送付することとしている。ご家族にはいつでも気軽に来苑してもらえるよう声掛けしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前・入居時に本人と家族から希望や要望などを聞いている。 入居後も、日常生活の会話から本人の思いをくみ取るよう聞いた事は支援経過記録に記入するよう努めている。 意思疎通が困難な場合は、本人の表情や拒否される事、抵抗される事などから訴えたい事を把握し、その方の求める暮らし方に近づけるよう検討している。	計画作成担当者は、利用者・家族から入居時に一人ひとりの思い、意向を把握し介護計画に活かしています。入居後は、モニタリングチェック表(サービス実施状況)と支援経過記録を毎日丁寧に記録することで、利用者一人ひとりの思いを汲み取るようにしています。 管理者・職員は、利用者の思いや意向に更に沿えるよう、フロア毎に気づきシート(書式)を工夫していく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時に家族・本人・関係機関から生活歴・馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過について話を聞いている。 入居後も日常生活の会話や動作・来苑された家族の情報を記録し、活用できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間の申し送り表や支援経過記録を活用し把握に努めている。定期的、または必要時にケア・カンファレンスを開催し一人ひとりのアセスメントを行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員や家族様に介護計画についての意見(気になる点・プランの変更点・対応策等)を記入してもらったり支援経過記録の内容をまとめカンファレンス時に活用し業務時にも各職員から入居者の要望・想いを聞き取り出来るように努めている。 また、毎日のモニタリングを基に目標の設定変更を行っている。	介護計画は3カ月に1回定期的に見直しています。モニタリングは毎日行っています。モニタリングチェック表、支援経過記録を丁寧に記録することで利用者の思いや要望を汲み取っています。毎月のミーティング会議でカンファレンスを実施して介護計画の見直しに繋がっています。必要時には都度計画の見直しを行っています。管理者・職員は、利用者の自立支援や役割が暮らしの中では大切であるということを重要視した取り組みをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ってサービス内容を実施し、その内容や気づきを支援経過記録に記載し情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別対応に重点を置き、クラブ活動やフロア行事、外出等、毎月の行事として参加して頂いている、より個人のニーズに合わせた個別の外出やレクリエーションにも取り組んでいる。家族より、フルートを母に聴かせたいとの声から、定期的に音楽会も開催している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向に沿って、2ヶ月に1回は、お茶の先生にボランティアで来てもらっている。 月に2回は傾聴ボランティアにも来ていただき支援の一部を担ってもらっている。3ヶ月に1回、入居者交流会「にじの会」に2~3名参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員は協力医療機関や各入居者の主治医や看護師と連絡相談できる体制にあり、日々の入居者の異変等に関しては介護職との連携を取りながら把握に努めている。	利用者がかかりつけ医師や家族の希望する医療機関に受診できるよう支援しています。家族の付き添いが基本ですが、困難な場合は職員が付き添いで受診しています。月2回内科、歯科の往診があります。利用者の主治医や協力医療機関による緊急時対応や24時間体制が整っています。看護師は、主治医との連携を密にし、指示を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は協力医療機関や入居者の主治医と連絡相談できる体制にあり、日々の入居者の異変等に関しては介護職との連携を取りながら把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際には医療機関に情報を提供し管理者・リーダー・職員が頻回に面会に行き、家族から医師や看護師の情報を医療相談員からは直接情報を収集している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時や状況の変化時は本人や家族の要望を早期に把握できるよう日頃より情報収集している。</p> <p>終末期には対応できる事、出来ない事を説明し書面で意向を確認している。</p> <p>ターミナルケアについてはミーティングや勉強会等で話し合い対応を考えている。また、入居者の死亡後には死後カンファレンスを開催し実施したターミナルケアの評価を行い今後につなげている。</p>	<p>重度化や終末期の対応については、入居時に看取りの指針をもとに利用者・家族に説明をしています。終末期には利用者・家族から意向を聞き、状況に応じて可能な限り希望に沿った対応をしています。看取りの後にはターミナルカンファレンスを開催し、実施したケースの評価・分析を丁寧に行っています。職員だけでなく、関係した家族にも意見を求めています。職員は、家族より「本当にありがとうございました」と心より言ってもらえたことを喜びとして、次に繋げるようなカンファレンスを行っています。</p>	
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ユニットに事故対応マニュアルを配備している。急変や事故対応についてはマニュアルを基に勉強会を開催している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な避難訓練を実施している。また火災発生時の通報、初期消火訓練を毎月開催している。 非常時備蓄表を作成し飲料水と食料、その他の物品の備蓄を計画的にしている。	年2回夜間想定を含む訓練を、消防署の協力を得て行っています。毎月20日には、フロア毎に通報と初期対応についての避難訓練を実施しています。災害マニュアルを整備しています。非常階段は、電子キーでロックしていますが、非常時には自動解除される仕組みとなっています。災害用備蓄は、各フロアの倉庫に保管し、備蓄表で管理しています。水や食料には、大きな字で消費期限の管理もしています。地震対応については、消防署に相談しながら実施していく予定としています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体勉強会にて接遇やプライバシーの保護について勉強会を開催し、言葉遣いや対応時の態度、家族の前でも出来る接遇を目指し取り組むようにユニットでも掲示、実践し意識付けしている。	管理者は、接遇やプライバシー保護の研修を実施しています。職員は丁寧に利用者一人ひとりに接しています。管理者は、ホーム内の言葉かけだけでなく、散歩や外出時にも姿勢や態度に気をつけるよう職員に細かい配慮をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、希望を聞き出し たり選択する機会を増やし自己決定が 出来る環境作りに取り組んでいる。無 理強いせず納得しながら暮らせるよ うに、動機づけの声かけを重要視して いる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切にし、 その日をどのように過ごしたいか、希望 にそって支援している	入浴に関しては職員側の都合により時 間を決め入浴してもらっているが一人 ひとりの求める生活のペースを大切 に、希望に沿えるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援している	毎月、訪問理容を利用される方や美容 院へ家族の方と行かれたり家族の方 がカットされたり、お化粧をしたり、その 人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援している。本人持参の化 粧品が少なくなっていれば、購入し補 充したり朝の整髪は個人のブラシを入 居者に渡して自身で髪を梳いて頂いて いる。 更衣時には複数の衣類より選んでもら える様声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは入居者の好きなもの、食べたいものを献立に入れ、買い物、食事作りを一緒にしている。 また毎食、盛り付けや片付け等一連の家事を一緒にしている。	昼食と夕食は1階厨房で調理し、朝食は各フロアで作ります。ご飯と味噌汁は、職員と利用者で作っています。週3回はフロアで食事作りをしています。献立から買い物、調理、盛り付け、後片付けまで行っています。職員は、家事支援についての利用者の役割を大切にしており、一人ひとりの介護計画にも反映させています。役割が生きがいとなるような支援に努めています。食事は、職員も一緒に同じものを食べ「美味しいね」と楽しい会話が広がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>            食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量については、チェック出来ている。繊維質や硬い物など食べ難い物は一人ひとりに合わせ刻み食やミキサー食にして食べやすくなるよう工夫している。また持病やアレルギーにも配慮して別食も提供している。</p> <p>随時水分を提供出来る様に机の上にお茶を置いている。飲料水の種類を増やす事で入居者に選んでもらい易くし水分量の確保を図り、ひとりひとりの正確な摂取量を把握できるようにしている。また必要な方にはとろみをつけるなどの対応で水分量を確保できるようにしている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b>            口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>月に2回、歯科往診してもらい、変化等あれば相談している。朝、夕は口腔ケアをしているが人によっては毎食後、口腔ケアを行っている。一人ひとりに応じて口腔ケア能力の維持に努め、必要な方には職員でブラッシングや歯間ブラシで仕上げの介助を行っている。</p> <p>義歯の方は夜間預かり週に一回洗浄剤を使用し義歯洗浄を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導を行っている。日中は出来る限り布パンツで過ごせるように支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、様子を観察しながら支援を行っています。単にトイレへ座るだけでパット交換しているようなことにならないよう、トイレで排泄ができることを意識しながら支援しています。職員からの要望で、排泄支援の講習会も行い、スキルアップを図っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取に気をつけている。また、入居者によっては排便状況により医師に相談し便通剤を調整してもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るように準備している。入浴を拒否される方に対しては、タイミングや声かけの仕方を工夫し、いつでも入れるように支援している。人員配置上、夜間浴は実施できていない。	ひとりでゆっくり入ることのできるお風呂で、週に2～3回の入浴ができています。入浴の苦手な利用者は、家族の協力を得たり、温泉施設に入りに行くなどの工夫をしています。同時に、入りたくないという利用者の気持ちを探求する努力をしながら、毎日タイミングをはかって声をかけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している	いつでも休息できるように共有 スペースにソファを設置し落ち着 ける環境づくりをしている。 就寝、起床時間は生活リズムが 作れるよう調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	常に最新の服薬管理表を掲示し て周知できるようにしている。 服薬時は複数の職員で確認し 与薬実施している。カンファレ ンスにて服薬の手順を定期的 に確認し職員に意識付けして いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し画 一的でない有する能力に応じた 家事活動を継続する事で役割 や生きがいを感じてもらえる ようにしている。外出やクラブ 活動にて喜び楽しみを感じて もらえるよう、また気分転換 を図れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って戸外に出掛けられている。週に3回以上はスーパーに買い物に出かけている。 本人の希望や喜ばれる場所を把握し、定期的に個別や気の合った入居者同士で四季の花や物が見れるように工夫し外出できるように支援している。年に1回は思い出の場所や希望の場所に1泊旅行もしている。	理念として掲げられている“外出”について、意義を十分に理解し、安全に外出を楽しめるよう支援しています。ユニット単位では月に4回、全体で月に1回の外出として、近隣の神社仏閣、公園、大型ショッピングセンターなどに出かけ、年に1回は一泊旅行にも行っています。また、企画していない日であっても利用者の希望でモーニングを食べに行ったり、天候に応じて散歩に出かけたりしています。 職員の押し付けにならないよう、外出を嫌がる利用者には、話をゆっくりしながら、外出する気持ちになったタイミングで出かけるようにしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には、家族の同意のもと所持していただき使えるようにしている。 金額が大きければ、事務所管理の預かり金から使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	1階に公衆電話を設置している。手紙も希望があれば、やり取りできるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間に朝日、西日など自然の光が入り時間を体感できるような大きな窓があり不快に思われたらカーテンにより遮光することができる。また、季節が分かるような掲示物や手作りものを飾り生活感を出す工夫をしている。ユニットの飾りとして習字や作業レクリエーション等で作成した物が見える所に飾っている。	リビングルームや居室は、いずれもゆったりとした空間となっています。ユニットの入り口でもあるエレベーターの前や廊下には季節を感じられる飾りや外出時の写真等が飾られ、温かみのある空間づくりがされています。各階に広々としたテラスがあり、そこで洗濯物を干したり、テーブルを出してお茶をしたり、利用者の憩いの場となっています。屋上では野菜を作っており、自然を感じられる工夫もしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペースだけでなく、TVやソファを設置し思い思いの場所で過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように、家族や本人に使い慣れたものを持ってきていただいている。また、ダンスやベッドの位置も本人の使いやすいようにしているが見守り必要な入居者にはリスクも考慮し配置している。	各居室の前に小さな棚があり、写真や人形、花などが飾られ、居室に入る前から一人ひとりを意識した空間づくりがされています。ユニットによってはその場所に、利用者を1年ごとに撮影したものを順番につなげてタペストリー風に飾り、ホームでのその人の歴史が感じられるように工夫しています。室内の家具はベッド以外持ち込みとなっており、ダンスだけでなく、テーブルやイスなど使い慣れたものが置かれています。その他、好みのカーテン、仏壇や位牌、自分で描いた絵、家族の写真等があり、思い思いのものに囲まれて過ごせる場となっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室からフロア、トイレへ移動する廊下に手すりを設けている。車椅子の方でも洗面所やトイレを使えるように工夫している。また、共有の場所(浴室、トイレ)には名札を目立つように掲げ、居室前には表札や顔写真など目印となるものをつけている。時計をユニット内にてどの場所でも見えるように工夫し6個設置している。トイレ内にも日めくりカレンダーを設置し椅子も個々の能力に合わせ、肘付き椅子等使用し、座位保持の際の安全に考慮している。</p>		